

# おお大勝利

令和5年度 山東サッカー部報第4号 (5月24日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 県総体前に県リーグで痛い連敗

5月14日(日) **Y2B 第3節山形明正B戦**が明正Gにて行われました。明正Aは今シーズンからY1に昇格し、いよいよ県のトップを争う位置まで来た。人工芝ピッチを整え、多くの指導者をそろえ、選手を県内外含めて広く集めてきた努力が実りつつある。AはY1でも昇格争いに食い込んでいる。前節の惺山戦を観たが、Bも好チーム。山東もここまで1分け1敗で勝ち点1しか取れていないだけに勝利が欲しい。

さて、試合が始まると、明正の選手のドリブルとかボールを持って時間を作るスキルに山東が振り回されるシーン目立つ。**山東にもドリブルが好きな選手はいますが、一か八か縦に突っ込んでいくタイプしかおらず、中盤でためを作ることができる選手が見当たらない。**1年タケハルにはその素質があるが、まだまだ素質は現実のものになっていない。山東にそういう「当たり前前のスキル」を持つ選手が見当たらないため、日常的にそういう選手と対峙できていない弊害が試合で出ている。山東サイドでの攻防が続いていたが、山東逆襲。山東の縦パスに確か明正GKと明正DFが交錯しこぼれたところを、やや遠めながら**2年ケンヤ**が左足でロングループシュート。それがきれいにネットに吸い込まれ、前半の前半山東先制。もちろんラッキーな得点ではあるが、**キックの正確性では山東随一のケンヤだからこそ得点**ではあった。その後も手厚く攻めようとする明正とカウンター攻撃主体の山東といった展開。前半中盤、山東の右サイド破られ、センターリングがこぼれたところを詰められて、**同点を許す**。そして、前半の終盤、不用意に与えたFKに対して、**山東のオウンゴール**があり、前半のうちに逆転を許す。後半も展開としては同じだったが、**2年ショーゴ**がDFラインを抜け出してシュートを放つなど、見せ場は作ったが、得点が遠い。そんな中、交代でいつもの左ではなく右SHで起用された**2年アユム**が、ショートカウンターから流れたパスに対して右足ワンタッチでクロスを入れると、またしても**2年ケンヤが今度は打点の高いヘディングシュート**を決めて、同点とする。ケンヤの跳躍力に目を見張るものがあつたが、それよりも！ 普段左足でニアポストまでも届かないクロスを上げている**アユムによる右足のナイスクロス**でした。アユムさん、右サイドの方がいいんじゃない？ 山東は勝ち点3を狙いに行くものの、徐々に全体の足が止まり始まる。それも当然で、ボールを簡単に失ってばかりいてボールを追う守備の時間が長くなれば、体力は削られる。この日の山東の出来は、タメを作ってもらいたい中盤の選手を中心に、厳しいものがあつた。明正の攻撃にDFの対応が遅れ、ゴール付近まで攻め込まれると、MFの帰陣も遅れ、ルーズボールを拾うことができず、それをそのまま明正の選手に決められてしまい、**再度勝ち越しを許す**。そして、そのまま**2対3で敗戦**。惜しい戦いではある。でも、チャンスに対して効率よく得点できなかつたら、チャンス数で劣るチームは勝てない。セットプレーの得点もない。そして、守備ではセットプレーを中心に守り切れない。厳しい結果となりました。

そして、5月20日(土)は**Y2B第4節羽黒B戦**。場所は今シーズン初のアウェー酒田市飯森山G。天然芝で試合ができる機会は少ないので、貴重。前節2得点のケンヤを故障で欠く。もちろん苦しいことは苦しいが、3年生がいるので、まだ持ちこたえられる。**3年生はGK、DF中心に、「後ろの選手」が多いため、どうしても得点経過中心に書きがちなこの部報において登場機会が少ないが、3年生がいるのは大きい。**リーグ後半、新人チームになった時どうなるか。さて、明正B戦の4231の布陣から、今節は343で臨む。それは守備になったときの硬さや県総体での選択肢を増やすためだが、試合前、攻撃的に守備をするべく相手のビルドアップへの嵌め方の確認を行った。しかし、試合が始まると、相手をリスペクトし過ぎるのか、前から嵌めるといふより、リトリートして守ろうとしている。それはそれで、一つの慎重な入りと言えるが、**リトリートしている割に、縦パスに対して強く行けていない。**守備が中途半端。相手陣地においてボールを積極的に取りに行かない姿勢が、自陣にてもボールに緩く行くことに繋がっているが本末転倒。引いてブロックを作ったなら、そのブロック内では強いかなければ、何のために相手呼び込んだのかわからない。相手に得点機を作られるも、**3年GKコースケ**のファインセーブで凌ぎ、冷や汗をぬぐう前半の前半。しかし、DFの技術的ミス、GKの判断ミスが続き、先に凌いだ得点機よりよっぽど**何でも無い形から失点**してしまう。こちら左からのクロスでチャンスを作るも、**左足を使えない(使えないままにしてきた)つけれを払われ、シュートすら打てずに終わる**シーンあり。前半0対1。後半はシステムと人を変え、0対1の負けも0対2の負けも同じこと、得点するしかないという共通認識のもと試合に入ると、後半の前半、**2年ソータが個人技からミドルシュート**を決め、同点に追いつく。山東の攻撃が続いていたし、早速の同点弾だったので、「山東いいぞ、よし行ける！」と意気上がる。しかし、その後訪れたチャンスをシュートへの消極性、シュート技術の低さにより逃し続けると、後半の後半、気をつけたいと願っていたセットプレーを与えてしまう。ゴール中央ペナギリ外での間接FK。一応壁は作ったものの、ワンタッチ目で前がかり、壁崩壊。しかもボールへのアプローチも速いものではなく相手にしっかりシュートを許し、2失点目。**壁を離れてボールにアプローチする人と壁を維持する人とを分ける必要があったし、壁に対してGKの立ち位置はどうだったのか。**県総体では繰り返したくないレッスンを得た。その後、山東が焦ってボールを奪いに行くものの、個でチームで、ボールを保持される。そして、攻め込まれたとき、相手がゴールから遠ざかる持ち方をしていたのに、DFが深追いして相手を倒してしまい**PKを与えてしまう。周りに味方はいたし、相手はゴールから遠ざかっていたので、慎重な対応をするべきだったし、それ以上に、慎重に対応するようGKや味方DFはコーチングするべきだった**が、それをしていたか。山南戦でも同じようなシーンがあったが、常に周りが声掛けでプレーに関わるのが当たり前になっているチームではない脆さが出た。**結局、1対3の負け。**

なんとか、良い形で県総体を迎える意味でも、県リーグで勝ちたかったですが、攻守に甘さが出て、2連敗。4節終わって勝ち点1しか取れていない。負けは負けでも接戦での負けだから可能性があるとも言えるし、接戦で競り負けるのは実力のなさ以外の何物でもないとも言える。とにかく、**気持ちを切り替えて、県総体に臨むしかない。**応援よろしくお祈りします。

**5月27日(土) 県高校総体1回戦 東桜学館戦 15:30~@米沢市営人工芝 SF  
それに勝つと**

**5月28日(日) 県高校総体2回戦 鶴岡東戦 16:00~@同上**